

誌上ディベート ロボット支援肝胆膵外科手術の pros and cons — 近未来のスタンダードとなり得るか —

2. 近未来の肝門部領域胆管癌手術

1) 開腹手術の立場から

水野 隆史（名古屋大学消化器・腫瘍外科）ほか

Abstract

肝門部領域胆管癌手術の根治性・安全性に関わる最重要手術パートである肝門部胆管と温存側肝流入血管の剝離は、他の肝胆膵外科ロボット支援手術では行われない手術操作である。いまだ周術期合併症・死亡率は高率であり手術症例数も多くないため、十分な肝胆膵外科ロボット支援手術と肝門部領域胆管癌手術の手術経験を有する施設で導入されることが望ましい。本稿では多数の肝門部領域胆管癌手術を行ってきた立場から、現在の課題を中心に議論したい。

2) ロボット支援手術の立場から

青柳 裕太郎（上尾中央総合病院外科 / 肝胆膵疾患先進治療センター）ほか

Abstract

本稿では、肝門部領域胆管癌に対するロボット支援手術の可能性と利点を検討する。R0 切除には、腫瘍学的安全性と精緻な手術技能が必要である。症例報告では、ロボット支援下で肝左葉および尾状葉切除を行い、合併症なく1年9カ月の無再発生存が得られた。近年の文献でも良好な成績が報告されている。ロボット支援手術には課題もあるが、今後重要な役割を果たす可能性がある。